1．意　見

最近は地球温暖化の影響等によって局地的な災害が多発しているように感じる。幸いにして最近は支流河川を含めた大淀川流域では災害が発生していない。これは喜ばしいことではあるが、このことは逆に災害への備えが不十分ということにもつながりかねないと思う。防災への計画が大事であることは強く望むところでありますが、住民との危機意識を共有した上での体制作り・組織作りを行政と自治体・住民・関係団体が連携した中で行う必要があると思う。

人と自然と河川を活用"して見直す"新たな発想の一緒に楽しむ"という要素を加える必要があるのではないか。河川のクリーン作戦をもっと行い、親しむ・楽しむための施設ができれば河川が遊び場になるのではないかと思います。